

テレビ放映されます！

来る12月30日(土) 午前8時30分から午前10時まで、フジテレビ系(関西テレビ、東海テレビ)で伊賀まちかど博物館が全国放映されます。番組名は「21世紀へ!夢・まちづくり」です。

全国でユニークな活動を行っている5地域を取り上げ、上沼恵美子さんの司会により全国に紹介されます。

先日この番組にむけてのロケが伊賀町、島ヶ原村、阿山町で行われました。

レポーターは人気バンド19(じゅーく)の一員として、また、イラストレーターとして若者に絶大な人気を誇るミツル(326)さんです!

ミツルさんが、訪れた博物館の印象をイラストにして館長にプレゼントするという企画でロケーションが行われました。ミツルさんの姿を見掛けた高校生が取り囲みサインを求めするなど、華やかで楽しい雰囲気の中、撮影が進められました。年末、お忙しいとは思いますが、全国放映ですので、ぜひ、お見逃しなくご覧下さい。



吟行バスツアー受け入れ

10月29日(日)の午後 大阪発の伊賀吟行バスツアーの一行が、伊賀まちかど博物館を訪れました。

このツアーは、芭蕉のふるさと「伊賀」で俳句を創作してもらおうと伊賀県民局が呼びかけ、募集した吟行ツアーで、主に大阪方面の方が参加されました。

午前中に創作した俳句が選考されている間に、伊賀まちかど博物館を見学していただくという行程です。

伊賀県民局からの委託を、伊賀まちかど博物館推進委員会が受けて行いました。

上野市、名張市、青山町の3コースに別れ、それぞれ限られた時間と場所ではありましたが見学をしていただきました。

あいにくの雨模様ではありませんでしたが、参加者はみな熱心に見学されていました。

また、見学途中でも俳句をひねってみえる方もいて、充実した一日を過ごせて良かったという感想も寄せられました。

伊賀まちかど博物館 バスツアー無事終了！

11月26日（日）伊賀まちかど博物館バスツアーを開催しました。一般公募の皆さんが40名、今年度開館予定の「三重のまんなか・まちかど博物館」、「東紀州まちかど博物館」の館長候補の皆さん各々約40名、計約120名が3台のバスに分乗し、伊賀まちかど博物館を巡りました。今回は、3月に実施したコースを一部変更し、一般公募バスは、青山町⇒名張市⇒大山田村の順路で、前回と違った館も見学してもらおうということで実施しました。

参加者からのアンケート結果をとりまとめましたのでご覧ください。

1. ツアーの感想は？

よかった (100%)

2. 今後このようなツアーに参加したいですか

・ぜひしたい (70.6%)

・機会があれば (29.4%)

3. 参加費有料でも参加したいですか？

・1000円程度なら (55.9%)

・2000円程度なら (26.5%)

・3000円程度なら (14.7%)

・それ以上でも (2.9%)

(全員の方が「有料でも参加したい」と考えていただいています。)

その他の意見の意見としては、

- ・館長の話が楽しかった。
- ・子供達にも見せたい。
- ・維持が大変だと思う。
- ・個人的には入りにくい気がする。
- ・時間が短すぎる。
- ・見学料をとればどうか。

等がありました。

県内各地にまちかど博物館！

伊賀のまちかど博物館に引き続き、津地域と東紀州地域で、まちかど博物館が開館します。

津地域11市町村（津市、久居市、安芸郡、一志郡（三雲町をのぞく））では65館が、東紀州8市町村（尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡）では90館が今年度中にオープンします。

それぞれに地域の魅力を活かしたユニークな博物館がそろっています。今後、伊賀まちかど博物館との新しい交流が生まれれば！と考えています。

ちなみに名称は、津地域が「三重のまんなか・まちかど博物館」東紀州地域が「東紀州まちかど博物館」と決定しました。

伊賀まちかど博物館絵葉書製作

伊賀まちかど博物館（上野市29館分）の絵葉書ができました。これは、上野市の中盛汀さんがボランティアで書いていただいたイラストを絵葉書にしたもので、イラストに各館長のひとことが添えられています。

1綴り1,000円で一般に販売します。各館長さんには、800円でお渡ししていますので、販売していただくようご協力をお願いします。

今後、収益金を他市町村分のマップ、絵葉書の製作などまちかど博物館事業の運営に充てる予定にしています。ぜひ販売にご協力をお願いします。

上野まちかど博物館探訪ツアー

11月4日（土）上野市内において博物館探訪ツアーが開催されました。市郊外のまちかど博物館を巡るシャトルバスツアーとウォーキングツアーの2つの手段で巡る企画です。

バスツアーは、3台のマイクロバスを20分間隔で、一定のコースを約1時間かけて運行し、見学者が自由に降りたい所で降り、見学が終われば次に来るバスを利用して違う博物館へ行くという方法でした。また、ウォーキングツアーは、数人の見学者に案内人がついて市街地中心部にある博物館を見学するという語り部方式で実施しました。スタッフは、上野市職員とボランティア、推進委員の有志という構成でした。

- ・ シャトルバスの利用方法が理解し難い
- ・ 最初に多くの方が集まったため1台目と2台目の時間の間隔がとれなかった
- ・ 徒歩による見学者が少なかった

等の問題点がありましたが、参加された方には「自分ではなかなか行けないので、参加してよかった」と言っていただきました。また、「とりあえず場所だけ確認して、また今度ゆっくりと来るわ」という方もありました。

館長からのメッセージ その貳

梅家博物館 館長 中西慶三郎

この地は、服部川に沿って発達した宿場町で「平田の町」もしくは、「山田の町」と呼ばれていま

す。1653年に藤堂藩の馬継ぎ所になり、1700年頃には、町の規模は、245間、戸数77戸、馬15頭、と記録されています。現在の戸数は、約90戸です。

その平田の地に梅家博物館が在ります。建物は、明治中期の商家で、表側は連子格子戸、脇の瓦には観音様・鶴亀等の装飾を施してあります。

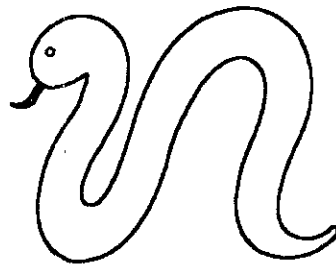
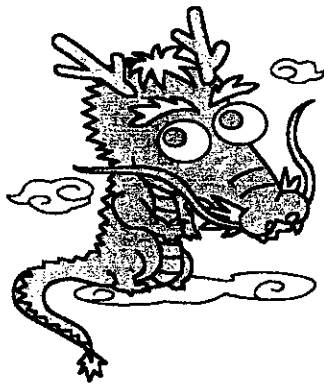
建具は、夏と冬とで模様替えをして季節に備えます。

什器は、古九谷焼の皿、輪島塗の膳・椀・箸、古伊賀焼きの茶器が、21客分あります。内輪の慶弔事にのみ使うために歳月をかけて

揃えた物で、華やかさの陰にある《わび》《さび》が感じられます。手仕事を「動」とするならまさに「静」の世界です。

ここは、夜が似合いますそれも極寒の。澄み切った夜空から槍のような月明かり、木漏れ日に映える庭、時折はねる池の鯉、感じられるかすかな息吹。

どうぞ いらして下さい



編集後記

年末も押し迫ってまいりました。10月11日とさまざまな行事が目白押しで、各館長さんもお忙しかつたと思います。まちかど博物館に対する取材も数多くあり、伊賀まちかど博物館への関心の高さがうかがえ、喜ばしい限りです。

ご意見ご要望等ありましたら、事務局までご連絡のうえしくお願います。

M